

国労フクシマ

国労水戸

国労水戸地方本部
 水戸市中央1-1-11
 ENYビル2F
 029-221-4008
 発行責任者 久保田重明
 編集責任者 坂下 司

風化させず継続へ

7回目を迎えた国労フクシマは2日目の午後に学習交流集会を開催した。
 福島第一原発事故から8年8カ月が過ぎた。今後も続く収束作業や除染作業に現場労働者の健康管理、労働条件の整備が課題にある。脱原発社会に向け取り組む必要がある。

集会では主催者、松川委員長から地震、台風人の手ではどうにかなるものではないが原発は停止させることで防げる。
 早い復興を目指し辛く大変な中で除染した労働者、乗務員、駅員が働いてい



る。これからも核との共存

一人で悩まず
 国労へ相談。
 みんなで楽しく
 がんばろう！

できないと警鐘を鳴らすと挨拶した。

福島県平和フォーラムの志賀一幸さんから、憲法改正について、参議院選で阻止や、この間の与党の問題で国民投票は見送りとなったが、また突き進む恐れがある。

福島県民大集会、署名で福島第2原発は廃炉になった。

4万がまだ帰還できない人がいる。風評被害、健康



問題を福島から発信しているこうと挨拶した。

高校生平和大使の赤沼優希さんから核兵器禁止条約が平和な世界に広がっていく。

10年前には核兵器禁止条約は実現不可能と言われたが2017年に成立した。

可能にしたのは人々の強い意志、想像する勇氣だと。

核兵器について外国と比較して学校で学ぶことが違う。教育の充実を訴えた。

核兵器廃絶と戦争のない世界をめざすと報告した。

福島県教職員組合の日野彰さんから講演をいただいた。避難解除されてもまだ放



射線は高い。車は走っていても人は歩いていない。子どもたちは震災翌日から一度も会うことなく離れ離れになった。

教員不足でパソコンで他の学校の授業もする。

昨年改定された放射線読本では放射線は私たちの回りに存在しゼロにすることはできないと説明してある。

金になるから、プロトニウムがほしいから原発はやめられないと報告した。

まとめとして佐藤書記長から原発事故を風化させない、核の悲惨さを訴え、現状を知ることが肌で感じ今後の運動としたい。

